うすひげ校長の回顧録

奈良県
フォレスターアカデミー
校長
藤平 拓志

早いものですね。もう２年経ったのですね。カリキュラムをどうするのか、誰が教えるのか、誰に頼むのか、学校施設として必要なものは揃っているのか、林業機械はどんな機種を揃えたらいいのか、チェーンソーやら刈り払い機はどれだけあったら間に合うか、関係者との連携は十分かなど、本当に開校できるのだろうかと不安しかなかったのが今では嘘のようです。やればできます（笑）。

もちろん、フォレスターアカデミー（以下、アカデミー）はこれからも改善しながら進化していく過程にあるのですが、第１歩は踏み出せたのかなと思います。

その第１期生の大半と第２期生の森林作業員学科の数名が令和５年３月に卒業を迎えます。

結構感慨深いものを感じます。アカデミーの学生の皆さんは、何かしら森林というフィールドに魅かれてこの学校に入学しました。でも入学当初は、森林に対する様々な知識や理論に関してそれほど持ち合わせておらず、苦労したことと思います。加えて、林業という危険な仕事での技術、例えばチェーンソーを使って立木を伐倒するなど初めての経験ではなかったでしょうか。

まだまだ成長の余地、いわゆる伸び代はたくさんあるものの、入学時から確実に成長しているのが見てとれます。自信を持ってくださいね。

「新時代」、「新しい資本主義」などの言葉が流行るように、時代は閉塞感を打破しようと必死な感じを受けます。しかしながら、心地よいキャッチフレーズだけ唱えていても何の変化も起こりません。実践あるのみです。森林・林業の世界も同じですね。実践あるのみです。

アカデミーに縁あって学ばれた、そして学んでいる学生の皆さん、どんな形であれ実践していきましょう。

世の中、何か新しいことをしようとすると、必ずあれこれ意見されます。

その中には貴重な意見もあれば、単に保守的なものや、あきらめに近い意見もあったりします。
人の意見を聞くことは大切ですが、それに一喜一憂するのではなく、自分の中で消化し、考え、実践の過程で反映させていくことが重要です。迷ったら、アカデミーの仲間に相談したり、アカデミーに帰ってきて相談したりしてもらったらと思います。一人で悩むことはないですよ。

それから、森林・林業・木材産業に関係する方々、森林をもっと活用していきたいと考えている方々、森林管理や防災問題に関心のある方々、様々な形でアカデミーに関わっていただいたらと考えています。

加えて、アカデミーに関心を持ち、入学して勉強してみようかなと考えている皆さん、気軽にアカデミーに問い合わせください。待っています。いろんな立場で、いろんな役割を担いながら、「新しい森づくり」が将来に向けて、みんなで展開できたら面白いなと思います。面白いこと、やりましょう！

表紙解説

高取町 たかとり健幸の森にて、岩場で実験的な植樹をしました。

奈良県フォレスターアカデミージャーナル　2023年4月発行
お問合せ：奈良県水循環・森林・景観環境部
奈良県フォレスターアカデミー　奈良県吉野郡吉野町飯貝680
電話：0746-42-8100　FAX：0746-42-8400

https://nfa.ac.jp/

●本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転写、複製、転載を禁じます。

Nara Forester Academy JOURNAL 3

奈良県フォレスターアカデミージャーナル

Nara Forester Academy JOURNAL

3

Die Interessen des Waldes und des Menschen verbinden. Concilier les intérêts de la forêt et ceux de la société

森林と人が共生していける未来を創る

Aut inveniam viam aut faciam

Förster sind gut ausgebildete und vielseitige Führungskräfte,
die sich als Praktiker im Wald sehr gut auskennen.
Les gardes forestiers sont des gestionnaires bénéficiant d'une excellente formation.
Praticiens multifonctionnels, ils connaissent très bien la forêt et agissent dans
son intérêt et dans celui de l'homme.

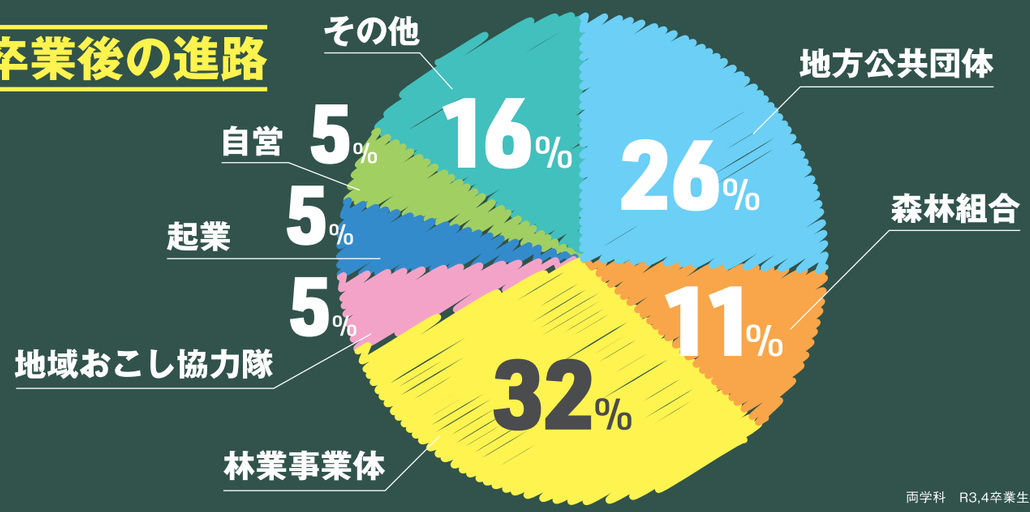
一目で分かる！就職実績
奈良県フォレスターアカデミーで学んだ力を存分に発揮出来る場所へ。

フォレスターアカデミーで取り組んだ就職へ向けた支援！卒業後のこともしっかり考えた、充実のサポート、一挙公開！！

総務企画課長　北村 達也

開校から丸2年。今までの林業に加えて、新たな問題点を見出し、自分で考え、森づくりだけでなく人との共存のことも考えて未来をクリエイトしていく、そんな人材を育てることに注力しています！講師の先生方からは「他では学べないようなカリキュラムもあり、これからの『森づくり』を考えられる人材育成をしている」と言っていただけたりインターンシップにおいて企業の方からは、「理解力がある」「意欲的である」「機械操作がうまい」「段取りが良い」と、学生らを自信を持って推薦していただけています。私たちアカデミー職員が愛情を持って育てている学生たちが就職先で活躍し、いつかその地域になくてはならない人材になっていただくことを心より願い、応援をしていきたいと思います！！

卒業後の進路



両学科　R3,4卒業生、森林管理職7名除く

奈良県フォレスターアカデミー無料職業紹介所

奈良県フォレスターアカデミー無料職業紹介所では、
当アカデミーの在学生及び卒業生と林業事業体等の皆さんとのマッチングのお手伝いをさせていただきます。

奈良県フォレスターアカデミーの在学生及び卒業生 ⇄（求職の申込み／林業事業体等を紹介）

奈良県 フォレスターアカデミー 無料職業紹介所

※県外からの求人も受け付けています。

⇄（学生・卒業生を紹介／求人の申込み）人材が欲しい林業事業体等

※求人は、林業事業体に限定しておりません。

マッチングの流れ（求人者向け）

1. 「奈良県フォレスターアカデミー」の在学生及び卒業生を採用したいと希望される林業事業体等の皆さまから求人の申込み（求人票）を提出していただきます。
2. 林業等への就職を希望する学生・卒業生は求職票を提出し、希望の条件などについて面談をいたします。
3. 求人・求職の条件をチェックした上でマッチングを行います。面接を希望する学生に対しては、紹介状を発行するなど手続きを行い、面接などの仲介を行います。

※提出いただいた求人票については、求人内容等を、しっかりと精査させていただいた上で学生らに紹介させていただきます。

これだけあればどこへ行っても大丈夫!

学生の間に取得可能な 資格・免許

技能講習

玉掛け、小型移動式クレーン、不整地運搬車、車両系建設機械運転、フォークリフト運転

特別教育

チェーンソー作業従事者、機械集材装置運転業務、走行集材機械運転業務、伐木等機械運転業務、簡易架線集材装置等運転業務

※奈良県森林環境管理士（フォレスター学科 卒業が条件）

安全衛生教育

刈払機作業、荷役運搬機械等によるはい作業従事者、造林作業指揮者等

その他

林業架線作業主任者の講習修了資格、上級救命講習、林業種苗生産事業者講習

免許

狩猟・わな猟

※奈良県森林環境管理作業士（森林作業員学科 卒業が条件）

キャリアサポートのスケジュール

4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月

- 授業をとおしてキャリアサポートに加えて繰り返し面談（～2月）
  - 対面での進路指導、マッチングをおこない希望する企業を絞ったり、自分のやりたい仕事を掘り起こす
- ガイダンス・セミナー等への参加（6月～3月）
  - 企業の方と話をするなどして、働くイメージをかためる
- 企業訪問（7月～3月）
  - 場合によっては、一緒に行って学生の後方支援
- インターンシップ参加（8月～1月）
  - 希望する企業で１週間働いて、自分に合っているかどうかを判断
- 奈良県林業労働力確保支援センター、奈良県森林・林業無料職業紹介所との連携・協力（6月～3月）
  - 年間とおして学生が将来希望する就職先の情報交換等を行いサポートしていく

ガイダンスの様子

求人をいただいた会社さま

会社名は以下のとおり、県外は、他○件で表すこととする

2022年度 奈良県フォレスターアカデミーに届いた求人票

- ●株式会社冒険の森
- ●桜井木材協同組合
- ●吉野中央森林組合
- ●フェレリ合同会社・「空中の村」
- ●株式会社日本森林クリエイト
- ●株式会社小田総建
- ●天川村洞川財産区
- ●西垣林業フォレスト株式会社
- ●ウッドバンク有限責任事業組合
- ●天川村森林組合
- ●中野林業株式会社
- ●御杖村森林組合
- ●上吉野木材協同組合
- ●一般社団法人大和森林管理協会
- ●吉野きたやま森林組合
- ●明日香村森林組合
- ●野迫川村森林組合
- ●原木材株式会社
- ●佃造林
- ●他県外５件

（順不同）

インターンシップ体験

Internship

アカデミーの学生へ　の指導で感じたこと

12月に実施した、インターンシップ体験では、
約40名が十数社の様々な事業体で仕事を体験しました
アカデミーでは、具体的に学生たちが就職のイメージがつかめるよう
学生の希望や適性に応じてインターンシップ先を検討しています
インターンシップにご協力いただいたみなさま
ありがとうございました

POLO BCS 株式会社

所在地：奈良県吉野郡東吉野村平野1315-1（おおかみ舎）

山中 正さま

本業はアパレル。自社所有山林の木を自分達で伐り、森林作業道を作り、運び出した木を市場や一般家庭に薪として販売を行っています。また、『おおかみ舎』では、自社製材加工施設で商品（アロマオイルやまな板など）を企画考案・開発・製作して販売しています。スポンサー企業である長野県黒姫にあるC・Wニコル氏が運営する『アファンの森財団』への出張や、毎春吉野の自社林内で開催する『ポロの森デー』では、グランピング等を行っています。

実施内容
12月5日（月）伐倒、架線集材、造材
12月6日（火）架線集材
12月7日（水）ウィンチ集材、造材薪作り、ポロの森視察（選木演習など）

森と木への敬意を持って山を大切に守り、次世代へつなぐ人材になって欲しい

Q. 学びのポイントは？

選木調査を行う上での考え方や森の見方ですね。目の前の木が、今伐る木か残す木か、お金にするには？いつ伐るか？伐った木にはどういうニーズがあるかなど、見極めができることをポイントにしていました。たとえば枝だって太い枝も細い枝もありますが、製材所では細い枝のほうが喜ばれるので、太い枝のところはバイオマスにまわすとか、そういう余すこと無く100%の木材資源を利活用する知識を知ってもらいました。切る長さや寸法次第で売れる木、売れない木が変わってきますのでそういうリアルなことですね。

Q. 学生達に伝えたかったことや、どんなことを学んでほしいと思っておられましたか？

やはり一番は、いろんな人に大切に育てられてきた木なので、伐るからには全部有効利用してほしいし、伐ったあとにはもとの森に戻るように植林してほしい。山と木に対する敬意の気持ちを大事にしてほしいということを伝えましたね。

Q. 他にPOLOさんが大切にされてることはありますか？

うちは奈良独特なやり方である「永代木施業」とう、「150年の木」を目標にしています。永代木になりそうな木を最初に選びその木の成長を阻害する木を間伐する。今まで山守さんが手入れしてくれたものを私達が林業部を作って継続していますので、それをまた次世代に継いでいかないといけません。だから立木1本だけではなく、森林全体を俯瞰的に眺めた上で選木対象をしっかりと選び、素材生産を行いながらも健康な森づくりを行うことを大切にしています。

Q. 実際インターンを実施していただいていかがでしたか？

少しでも多く現場で実践してもらって、働いているイメージを持ってもらえたことは、良かったなと思いました。アカデミー（以下NFA）の学生は、一般の求人で来てくれた人とは良い意味で全然違いますよ（笑）。すでにある程度森林・林業のことを学んできているので、同じ作業を教えるにしてもかなりスムーズで、即戦力になるなと思いました。1年生の早いうちからかなりの数の資格を取っておられると聞いていますし、KYT（危険予知トレーニング）をしているから、危険なこともだいたい知っていますしね。これから他の会社に就職するにしても、「あのときPOLOのインターンで経験しておいて良かった！」と思ってもらえることがあれば、やったかいがありましたよね（笑）。

Q. 学生の印象はいかがでしたか？

林業を目指して入ってきてくれて嬉しいです。最近の若い子は私たちの世代よりも、環境問題や自然や地球のこと、ずっとしっかりと考えていますよ（笑）。人が生きる上で必要な酸素を作ってるのは森なので、山を整備しないと二酸化酸素吸収量も減るし、本当に重要な仕事なんです。降った雨は木が水を貯めてくれるから川の水になるのだけど、現代人はそういう恩恵を忘れていますよね。山を疎かにすると日本の国土が崩壊しますよ。彼らは環境の保全を自分たち自ら考えることから学んでいるので、頑張ってほしいです。

Q. どんな人に会社に来ていただきたいですか？

基本、山が好きな人なら大丈夫。理想と現実のギャップはあるけど、それさえ乗り超てもらえたらね。あ、NFAの学生さんでうちをとても入ってくれてる子がいるので、本当に来てもらえることになったら嬉しいですね！

学生の感想

村山 貴規 フォレスター学科１年

特に僕が1番身についた内容は選木調査を行う上での考え方や森の見方です。森にしっかりと敬意を払い、立木1本だけの状態を見るのではなく、森林全体を俯瞰的に眺めた上で選木対象を選び、素材生産を行いながらも健康な森づくりを行うことを学びました。身につけた経験を生かせるようこれからも自己の研鑽を積んでいきます。

嶋田 宗慈 フォレスター学科１年

材の集材搬出と土場での造材を経験しました。他の樹木を傷つけないように伐倒のコース取りをすることを学び、自社林を大切にする姿勢を感じました。新たに買い取られた隣の山林は放置林なのですが、それでも長期的に山林を回復させ山を生き返らせることができると話されていました。課題に対する取り組み方や姿勢を僕も活かしていきます。

株式会社小田総建

所在地：奈良県宇陀郡曽爾村長野19

林 宙さま

約10年前に工務店として建築業から林業業界に進出。建築・土木・製材・森林組合職員経験者が集結し、山林を所有している方々に仕事を任せてもらったり、自治体発注の森林整備事業も行う。豊富な知識と経験を活かしながら市場のニーズに応える造材を行い、ハイクオリティで綿密な作業路網を開設している。また、建築・建設業界仕込みの高効率な作業工程、常にさらに良い作業方法が無いか社員同士でミーティングを重ねています。

実施内容
12月7日・選木、造材、間伐・路網作設、先行伐採
12月8日・間伐、枝払い、造材先行伐採、造材
12月9日先行伐採、間伐

仕事としてのリアルな現場を体験してもらい、就職後のイメージを得てもらいたい！

Q. 学びのポイントは？

「生徒につきっきりで教える」感じにもできたけれど、それよりもむしろリアルな仕事を体験してもらうほうがいいかなと思い、生産性を落とさないために実際の現場ではどういったスピードでやっているかなどの経験を重視しました。造材ではどの部分を伐るかとか、長さの図り方とか、どういうところは材にならないかなど具体的なところですね。

Q. 学生達に伝えたかったことや、どんなことを学んでほしいと思っておられましたか？

書類作成や測量などは学校でも学ばれるでしょうから、そういうのは就職してからでもできるので、リアルな仕事の一連の流れすべてを体験してもらおうと思っていました。路網計画ひとつをとっても計画どおりにはいかないので、常に山の状態を見ながら臨機応変に変えていく部分も必要です。そういうところは学校では学べないだろうし、地形図を見て理想的に作図指定をして計画していくだろうけれど、理想通りにできないというのはリアルな現場でしか体感できないと思います。

Q. 実際インターンを実施していただいていかがでしたか？

生徒さんたちは伐倒経験の回数が圧倒的に増えたと思います（笑）。「これを伐ったらもう次にこれも伐るの！？」みたいな、スピードに驚いていました。安全管理や足場硬め、チームワークや疲れ度合まで（笑）場数積んでもらえたと思います！私達も、どんなことやってもらおう？とか、その子に合わせてどこに配置しようかな？と考えることで、色々発見できました。うちはみんな結構世話焼きで（笑）、せっかく来てもらったしこれも経験してもらおうとか、木を前にして「この木は、どうすればいいかな？」と自分で考えてもらおうとか、和気あいあいと作業できて楽しかったですね。

Q. 学生の印象はいかがでしたか？

若い子が来てくれたので、「元気だな～」と感じました（笑）あと、アカデミー（以下NFA）で一通りのことを学んでから来てくれているので、ちょっと伝えただけでコツをすぐにつかんでくれるのが良かった。全くの林業未経験者の場合、林業用語自体の意味がわからず、最初は「倒した木の枝を払っておいて」と言っても何をするかわからないことがあるんですが、学生さんはすでに木材用語を理解してくれているので、すぐできたし、NFAの人が来てくれたほうが早いなって思いました（笑）うちの社員も逆にNFAに興味を持って、生徒さんに「学費いくらなん？」「どんなことするん？」など根掘り葉掘り聞いてましたよ（笑）

Q. どんな人に会社に来ていただきたいですか？

実はNFAの生徒さんの１人が、うちに就職することが決まったんです！和気あいあいしたムードを好きになってくれたみたいです。チームワークが大事なので、コミュニケーションが取れて、わからないことは自分からちゃんと聞けたり、みんなと仲良くやれる人に来てもらいたいです。

Q. 他に小田総建さんが大切にされてることはありますか？

林業って、自然の中で癒やされるとか理想を言われがちだけど、儲からなければ意味がないじゃないかと思ってます。でも逆に言えば、うまく考えてやれば、あたまひとつふたつ抜け出せ、かつしっかり稼げるチャンスもある業界だと思っています。だから、「俺も（私も）やってやるぜ！」みたいな情熱ある人が増えてほしいと思っています。逆に着実にコツコツやっていくタイプもいて、どちらのタイプの良さも大切にできる会社があるって思ってもらいたいし、なんなら経営陣に入りたいくらいの気概で（笑）、もし独立するにしても、やり方を学んでノウハウを持っていってもらってもいいくらいに（笑）思っています。次の世代を育てていかないと、山や自然を引き継いでいってもらえないですからね！

学生の感想

乾 天翔 フォレスター学科１年

僕は路網づくりと間伐をメインに体験させていただきました。選木から伐倒、玉切り、重機操作など現場ならではの全体の流れやスピード感など、細かく教えていただきました。インターン半日でこれまでの学びでの伐倒本数を軽く超えたのには驚きました（笑）自分の課題も見つかったので、学びの中でクリアしていきたいです!

岩田 雄也 フォレスター学科１年

僕はチェンソーで木を伐ったりそれを造材したり、フォワーダでの搬出、間伐する際の選木を体験させていただきました。特に学んだのは安全第一がとにかく大事だということ。そのほうが効率もいいし作業も止めずにできる。また経験を積むことが大切でただこなしていくだけではなく自分で考えて理解して作業をすることを教わりました。

これまでインターンシップにご協力いただいた企業のみなさま

会社名は以下のとおり、県外は、他○件で表すこととする

民間（林業会社）｜㈱徳田林産、ウッドバンク有限責任事業組合、㈱小田総建、カクキチ木材商店、西垣林業フォレスト㈱、ポロ・ビーシーエス㈱、久住林業、㈱玉木材、㈲津田林業、㈱十津川造林、豊永林業㈱、森庄銘木産業㈱、（一社）吉野かわかみ社中、㈱日本森林クリエイト、Forstwald、アルペロクオーレ　他２件

森林組合｜明日香村森林組合、宇陀市森林組合、黒滝村森林組合、五條市森林組合、下市町森林組合、都祁森林組合、天川村森林組合、十津川村森林組合、吉野きたやま森林組合、吉野中央森林組合、他１件

民間｜桜井木材協同組合、㈱冒険の森、（一社）大和森林管理協会

行政｜天川村洞川財産区、奈良公園管理事務所、他１件

※インターンシップ　森林・林業関連の会社は、もちろんのこと、学生達が行ってみたいと希望する会社へもアカデミーとの覚え書きや協定書を締結していただけるところについては、参加してもらえるようにサポートしています

インターンを受け入れていただける企業を募集中！
問い合わせ　0746-42-8100（総務企画課まで）

NFA 奈良県フォレスターアカデミー 独自の教育プログラムをご紹介！

スイス研修で「フォレスター」としての活躍 イメージをつかむ！

スイス研修へ行ってきました
2022.10.9～14

全国唯一の「フォレスターの育成」に特化 した海外研修

NFAでは、卒業後の理想のフォレスター像を確立してもらう目的で、フォレスター学科2年生を対象に、 スイスへの海外研修を実施しています。今年度、NFA創立後初めての研修を実施しました。海外への林業視察をカリキュラムに取り入れる学校は他にもありますが、「フォレスター」の育成に特化したプログラムを受講できるのは全国でNFAだけです。そんなスイス海外研修で出会ったフォレスターは総勢12名！そのうち4名から 学んだことをご紹介します！

「フォレスター」とは?

「フォレスター」とは、スイスにおける「森林管理官」のことで、担当する地域の森林から収益を得つつも防災に配慮した施業を企画・立案し施業を監督する役割を持ちます。地域における地位が高く、多くの子どもたちが憧れる人気の高い職業です。森林管理に必要な技能や専門知識に加え、経営・マーケティングなどに関する幅広い知識を有し、地域の人々と協力し森林からの恵みを将来にわたって受けられるように動く、いわば『森の総合プロデューサー』です。

なぜ今「フォレスター」が必要なのか?

近年、奈良県のみならず日本全国で、林業の振興や、木材生産に適さない森林の取扱いが課題となっています。そうした課題を克服するためには、地域の自然環境や森の状態を把握し、関係者と合意の上で森づくりを進める必要があり、これを主導する「森づくりのプロ」が必要です。奈良県ではスイスの森林管理を参考に、地域の人々と共に森づくりを考え主導する、奈良県版の「フォレスター」を森づくりのプロとして育成することで、奈良県の森を地域から良くしていこうと考えています。

4人のスイスフォレスターからの学び

フロリアンさん

木材生産による収入と防災を両立する森づくりのプロ

フロリアンさんは、スイスの険しい山岳地帯で木材生産を重視した施業を監督しています。山岳地帯では、雪崩や落石から人命やインフラを守るための森林整備に国や州から助成金が出ます。フロリアンさんは、地域の森林を上手く活かして地元住民の収入をつくり、かつ、人命やインフラを守るための施業を考案し関係者をコーディネートする仕事をしています。地域住民と意見が対立することもあるそうですが、丁寧に説明し納得してもらうそうです。また、木材の販売先を探して契約までとりつけるなど、マーケティングの仕事もしています。森林の側の住民や、森林所有者などの意見も聞きながら、厳しい自然環境をコントロールするという非常に難しい仕事ですが、フォレスター学校で学んだ森づくりの知識を活かし、日々業務に取り組んでいるそうです。学生たちは、フロリアンさんが多岐にわたる仕事をこなしつつも、しっかりと収益を上げている様子に感嘆していました。

アドリアンさん

森を観察して より良い方法を選択する

アドリアンさんは、長い間手入れされず暗くなったブナの森を、間伐により明るくした森を案内してくれました。この森はアドリアンさんの前任のフォレスターから引き継いだ現場です。前任者は、木と木の間にある木を全体的に間引くことで明るくしました。一方、アドリアンさんは、木を集団でまだら模様に残し、その集団と集団の間にある木を伐採しました。アドリアンさんは『前任者の手法では、森を明るくできはしたが、光が入りすぎて乾燥するため成長が悪く、虫や風に弱い。そのため私は木の集団を残すことで林内の湿度を保ち、風にも虫にも強い森にした。』と言っていました。また、この森では、木材販売による利益を所有者に還元することで、次の世代の森づくりに充てる資金も確保。森の安定を確保しながら収益も確保するというフォレスターの神髄が垣間見られた、アドリアンさんのしごと現場でした。

トーマスさん

場所や目的に合わせて 森づくりの方法を生み出す

トーマスさんはガルムヴァルトと言う歴史ある森林を担当しており、そこで色々な植栽方法や伐採方法をしています。例えば、広葉樹の苗木を1m間隔に密に植え、少しずつ間伐を行うことで、上方への成長を促し、枝が少なく真っすぐな木を育てたり、一方で数十本を集団にして植えることで安定度の高い森に仕立てたり…。トーマスさんの言葉で印象的だったのが『一つのレシピだけで料理を作るのではなく、その場所で何をしたいかによって作り方を変えるのだ。』という一言でした。マニュアル通りに森づくりをするのではなく、現場の状況に合わせて考える技術者であることの重要性を知りました。

ダリオさん

地域で信頼される 存在になるための 正しい知識と丁寧な助言

ダリオさんは地域の歴史や地質、植生などに大変詳しく、多くのことをお聞きしました。ダリオさんの一番の仕事は森林所有者への助言。森林経営に対して助言する際には、森林に関する知識、技能を有することはもちろん、土地のことを熟知している必要があります。スイスの山村でフォレスターは、村長、医師、牧師、神父と並び「重要な5つの人物」の1人だそうです。ダリオさんは地域の外から移住したフォレスターで、初めは村の住民から知られてすらいなかったそうですが、フォレスターと知った途端に良くしてもらうようになったとか。それだけフォレスターが村にとって重要と言うことでしょう。

現場発案の森づくりを実現し 日本の林業もワクワクできる職業に

日本ではこれまで全国一律の仕様に沿った「トップダウン型」の森づくりが行われてきました。一方、スイスでは住民や森林所有者がフォレスターの助言のもと森づくりの計画を立て、認められた計画に対し行政が助成金を出す「ボトムアップ型」。つまり、日本では地域に合った独自性のある森づくりが困難ですが、スイスでは計画段階から現場に合わせた施業方法が考えられます。裏を返せば、地域を熟知し森づくりの知識が豊富な人材として「フォレスター」の存在が必要不可欠です。奈良県でも、ボトムアップ型の林業政策とフォレスターの育成という両輪がうまく回ることで、「地域に合った森づくり」ができるのだろうと感じました。また、関係者同士で100年後の将来を見据えて森づくりを計画し、現場での創意工夫が認められる仕事環境が、フォレスターの仕事にワクワク感を与え、魅力のある職業として定着しているのでしょう。

学生の感想

豕瀬さん
フォレスターが地域社会に密着し、住民から信頼され尊敬を集める存在であることを学びました。

合田さん
フォレスターは森に関する豊富な知識と経験を活かし地域に収益と安全をもたらすためのプロフェッショナルだと知りました。

森本さん
豊かな森を後世に引き継ぎたいというフォレスターの使命感や仕事への姿勢に感銘を受けました。

学生インタビュー

学生 VOICE

ボイス

内定が決まった学生に聞く

これからのキャリアビジョン

**みなさま、
進路の決定おめでとうございます！
どちらに就職が決まりましたか？**

原田（フォレスター学科）　僕は、「中野林業株式会社」に就職します。この会社は作業道づくりや吉野式間伐、広葉樹林択伐などがあります。この会社を選んだ理由として、自社の山を自社で管理する会社なので、奈良県フォレスターアカデミー（以下NFA）で学んだ森林の管理や経営、森づくりなど多くの学びやスキルが活かせると感じたことと、この会社が広葉樹の択伐という新しい取り組みにチャレンジしているという点です。NFAで学んだ森づくりの知識が活きれば、仕事を続けていく上でのモチベーションになると思ったからです。これからフォレスターとして、市町村に行かれる森林管理職の方々と事業体側との橋渡し役になれたら嬉しいなと思っています。

平岡（森林作業員学科）　僕は地域おこし協力隊として黒滝村森林組合に就職します。森林組合の皆さんと一緒に林業の現場で働きます。もともと「特殊伐採」がしたくてこちらを選びました。

国本（森林管理職）　僕は奈良県内の市町村役場へ林務担当として配属されます。森林の適正な管理や林業の活性化に関わりたいと思ったため、この進路を選びました。

**フォレスター学科、
森林作業員・森林管理職とありますが、
どのような違いがあるのでしょうか？**

国本　基本的に最初の募集枠から違って（8ページ下図参照）、「森林作業員学科」は1年で林業の基礎を学び、それにプラスして「フォレスター学科」は2年目で総合的な経営等の知識も学びますが、僕のような「森林管理職」は、県職員として採用されて「フォレスター学科」に入っています。卒業後は市町村にいくと決まっています。

**原田さんと国本さんは、
フォレスター学科の第1期生として
初めての卒業生。今のお気持ちは？**

国本　そうですね、この学校の特徴の１つでもある、「行政の職員が学校で学生らと一緒に学び、それから市町村に派遣される」ということは、日本の中でもはじめてのことなので、学びが活かされ活躍できるかどうかは実は僕らにかかっているので、かなり期待を背負っていると感じます。

原田　「フォレスター」としてどのように地域のお役に立てるか、しっかり頑張らないと！と思っています。

**この先どのようになりたいか？
将来やキャリアのビジョンを
お聞かせください。**

原田　僕は将来的には、いろんな人が森林・林業に興味を持ってもらえるような活動をしたいと思っています。森林も林業も、僕たちの生活を支える欠かせないものですが、それを実感する場面はほぼないと思うので、それに気付いてもらえるようなインパクトのあるきっかけづくりをしたいです。

平岡　僕は将来的には梶谷さんや岡崎さん（黒滝村森林組合）のように、山仕事も町での「特殊伐採」も高いレベルでこなせるスペシャリストになりたいです。また、いろんな人に林業を知ってもらいたいですね。インターン先で木を伐っていたときに、子供が「わあ、かっこいい！」と言っていたのを見て、林業をもっと選ばれるような職業にしたいなと思いましたね。

国本　僕は森林管理方法や産業構造に課題意識を持ちこの学校に入学しました。卒業後は、地域に密着した行政職員として森林の管理業務の実践が始まります。まずは、地域を理解し好きになることから始め、地域にあった森林管理方法や林業活性化の方法を地域の方々と一緒に見つけたいと思っています。また僕も将来的に森林・林業に携わる仕事に就きたいと思う子供を増やすことで、日本の林業が持続可能な形になることに貢献したいと思っています。

**一番印象に残っている授業は
どんな授業でしたか？**

原田　印象に残っている授業は、「自然配植理論」の授業です。その土地に合った樹種を植栽することでその土地本来の自然の状態に戻していく、という考え方です。この授業で森林の奥深さ、というか途方もない部分を本当の意味で理解した気がします。

平岡　「林地の災害リスク」の授業を受けて、山の見方がガラッと変わりました。山が崩れるメカニズムを理解し、地形の凹凸や地質の特徴、指標となる植物等を把握する術を習得することで林業と国土保全の両立を考えられるようになりました。

国本　僕も平岡さんと同じで1,2学年続けて実施された「林地の災害リスク」という授業が最も印象に残りました。

**進路を決めていくにあたり、
NFAの職員から
どのようなサポートがありましたか？**

原田　希望する条件に合う就職先の斡旋などしていただきました！また、インターン時には学生の希望する事業体に受け入れてもらえるよう、掛け合ってくださいました。

平岡　県職員の高雄先生とはワイヤー加工の練習時や、チェーンソー実習でとてもお世話になりました。進路に関して、少し悩んでいた時も背中を押してくださり、勇気をもらいました。黒滝村森林組合に入りたいと決めてからも、間に入って頂き、とてもスムーズに話が進みました。本当に感謝しています。

国本　定期的に面談を実施して頂き、各市町村の特徴などを教えて頂きました。

**同級生や先輩・後輩と進路について
相談しあったりしましたか？**

原田　社会人経験がある方々が多いので、仕事をする上でのモチベーションをどこに置くかなど、よく相談させてもらいました。アカデミーで一緒に勉強した仲間同士で、就職した後も横の繋がりを活かせるといいね、という話もしました。

平岡　家族で移住するならどんな土地がよいか、40代で林業を始めるならどのような事業体及び組合が向いているか、などの話をしました。

国本　２年間で計５回のインターンシップに参加し、参加後には毎回報告会が実施されました。自分が気になった全ての事業体や市町村のインターンシップに参加できるわけではないので、他の学生の報告を聞いたり、個人的に話を聞くことで多くの情報を得ることができ、進路の決定に大変役立ちました。

学生生活で、転換期ってありましたか？

原田　JLC（日本伐木チャンピオンシップ）の出場に向けて取り組み始めたことです。チェーンソー作業の素早さと正確性、そして安全性を競う競技です。チェーンソーを効率よく安全に使いこなすための技術が自然と身についたことが僕の転換期となりました。

平岡　5月中旬からワイヤー加工の練習を始め、一緒に練習することで友人ができたり、２年生の方々とお話できたり、県職員の先生方とも親しくなることができました。少しの時間も無駄にせず吸収できるものは全て吸収してやろうと思うようになったことが転換期となりました。

国本　スイス研修においてスイスフォレスターたちの仕事を見せていただき、自分の中でぼんやりしていたフォレスター像が少し明確になったことが僕の転換期となりました。
（P5～P６参照）

苦労したことはありましたか？

原田　入学してしばらくは、授業の内容がどのように林業と関わってくるのか、しっかりと理解できていない部分が多かったように思います。徐々に関連がわかってくるので「そういえばあんなこと言ってたな」と覚えておくことは重要だと思います。

平岡　特に「路網計画の理論と実践」で路網を設計したときは、様々な計算を駆使して平面上に作図するのがとても難しかったですが、先生が丁寧に教えてくださったのでわかるようになりました。

国本　自分の意見や調査内容をアウトプットするレポート課題や発表課題が大変だと感じましたが、繰り返しやっていくうちにうまく書けるようになりました。

**では最後に、入学を検討している人への
メッセージをお願いします！**

原田　NFAは、森林・林業への関わり方が一つではないことを教えてくれます。林業に興味を持ってくださった皆さんが、NFAにも入学していただけたら嬉しいです。

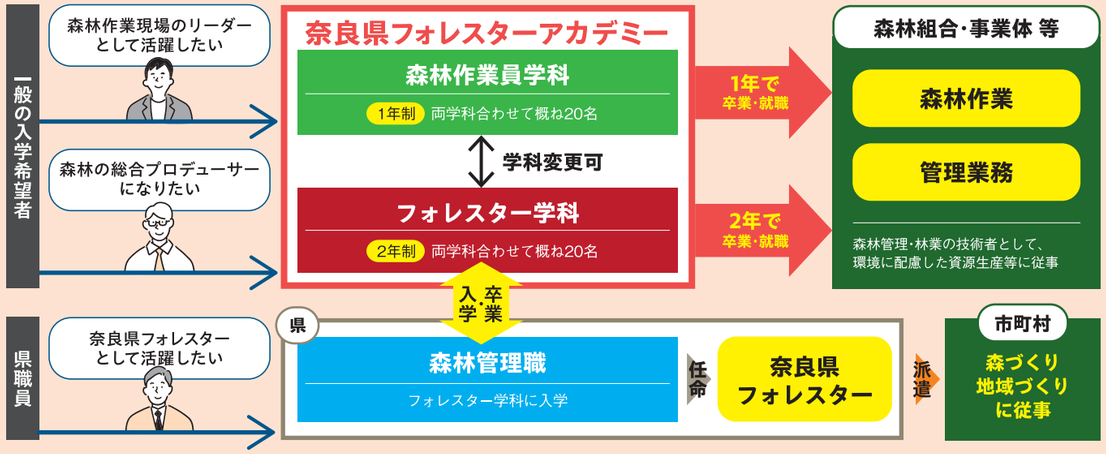
平岡　NFAは未経験から林業に就業するにはとても良い学校だと思います。入学前にある程度卒業後に自分がどんな所に就職したいか、どんな仕事がしたいかなどをイメージしておくと、NFAで授業を受けるモチベーションも全然違ってくると思います。NFAにはやる気のある生徒を全力で受け止めてくれる熱い講師がたくさんいます。実りある学生生活を送るには、自分のやる気にかかっています。迷ったときは行動しましょう！

国本　他の林業大学校と異なり、林業作業よりも森づくりや企業経営に特化した授業が多いため、将来的に森林管理や企業経営の職に就きたいと思っている方に非常におすすめです！

JLCに出場し、日頃の成果を発揮したあと、参加仲間と記念撮影

奈良県フォレスターアカデミーの概要

入学～卒業の流れ



市町村に配属される奈良県フォレスター（アカデミー卒業生）と森林組合・事業体に就職するアカデミー卒業生が連携して森づくり・地域づくりを行う。

突撃☆職員室 Vol.03

奈良県フォレスターアカデミーで働く「人」にフォーカスするコーナー。

アカデミーを担う

3人の先生の対談

～森づくりのプロの育成を担うために～

自然配植技術協会会長、NPO法人森林再生支援センター常務理事

髙田 研一

森林と樹木に関する基礎生態学の研究を長年続け、その成果を緑化や造園、造林、治山などに活かしている。また、パッチディフェンスの発案者で防災的機能など公益性の高い森林のあり方を具体的に提案してきた。

フォレスターアカデミー 教務課

髙雄 亘

森林作業に伴う様々なリスクに気づき、考えられる技術者育成を目標とし、技術と知識の更なる習得に向けて自己研鑽の毎日。

フォレスターアカデミー 教務課

野口 貴士

森に関する授業を専門的かつ幅広く担当。学生さんの学びたい意欲を実現するため、課外授業の運営にも積極的。

1 NFAは本物のプロの育成が可能

髙雄　森づくりの専門家育成がアカデミーの主たる目標で、森林生態系概論Ⅰ・Ⅱでは「森林立地に応じた森づくり手法の習得」という高度な技術習得を目指しているため、真っ先に外部講師として頭に浮かんだのが我々２人の大学時代の恩師である髙田先生でした。

髙田先生　奈良県が新たな森林林業の担い手育成の学校を設立するという話は、仕事仲間から聞いていたが、その仲間を通じて現校長から講師依頼があったときは驚いた。

野口　この業界も広いようで狭いところもあって意外なところで繋がるものですね。

髙田先生　一人の教育者として本物のプロを育成できる教育機関なのかを見極めたかったから、アカデミーの設立理念や将来ビジョン、育成する人材像、カリキュラム構成、担当授業の立ち位置等を校長に伺ったが、素晴らしいアカデミーができるなと思った。

髙雄　他と比べてかなり異色だと思っていますが、そこがアカデミーの特徴であり、課題解決型の授業内容を取り入れていることも差別化に繋がると思っています。

髙田先生　このアカデミーが他の林業大学校と考え方が異なるのはそこ。課題解決型トレーニング※1 をすることで本物のプロの育成が可能になる。これからの森林の未来を託すことができるプロを真剣に育成しようする熱意と具体的なビジョンが伝わったので講師を承諾した。電話だったが校長の考えや人柄も承諾した要因の一つ。

※1 現在認識している顕在化した課題から本質的な課題を特定し、その解決方法を導き出すトレーニング。

2 自然は不均質で多　様だからこそ美しい

野口　この授業では髙田先生が構築された自然配植技術※2 を森づくりの基礎としていますが、森づくりを行う上で学生に習得してほしいことは何ですか？

髙田先生　「自然配植」という手法により、自然のもつ豊かで多様な力を生かしながら緑を創造し保全したいと考えていて、現場をみる力・材料を判別する力・すぐれた環境を生み出す力など高い専門性と豊かな経験をもった人材育成が必要不可欠と思っている。

　そのためにはまず、周りに言われたからどうするかを考えるのではなく、今目の前にある森林を見て自ら何に気づき、何を考え、この森林をどうしたいと思うのか。という思考回路になってほしい。

　その上で、自然の「ありよう」を知るには、その場に木や石や土がどうあって、どんな風が吹いているのか、人の姿との関わり方、どう変化していくのかという総合的な見方が必要になる。

　この「ありよう」を理解するための基礎的な能力を習得し、将来的に自然配植を実践できる技術者になってほしい。

野口　そのために課題解決型トレーニングを採用しましたが、自然配植の理論を元に森林を様々な視点から見る課題を与えると「森林＝林業」という単純な発想はしなくなりましたね。

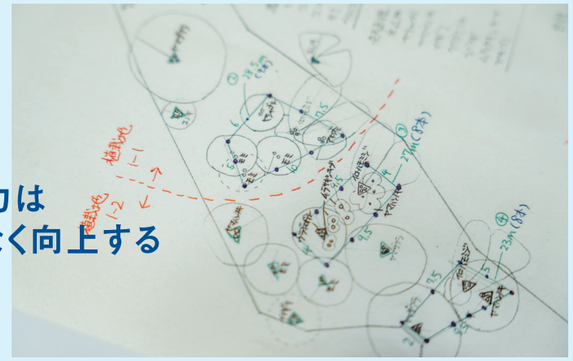
髙田先生　まず「森林というのは公共財」との認識が必要。様々な場の違いに応じた森林の健全な姿、美しい姿があって初めて公共財としての価値が高まる。本来の森林のあり方を考えたときに木々の命と自然の掟の中でしか人の都合は叶えられない。人は均質で単純な森林を求めてきたが、自然は不均質で多様だからこそ美しい。

野口　下北山村前鬼や上北山村大台ケ原等の天然林を視察し、その地域本来の植生の解説を聞きながら目の前の森林を五感で感じることで、それが本来あるべき自然の姿だということに気づかされますね。

髙田先生　これまでは人間中心の観点を優先したことで森林を林業のためだけに利用し、一様性や規則性が求められてきたが、一時的な生産性の向上をもたらすが持続的とは言えない自然の現実に直面していることに正面から向き合わないといけない。

※2「人の都合での森林づくりから自然の都合での森林づくりへ」という業務実施の考え方を示すもので、公益性等の社会的価値を含む長期的な経済的効果の最大化を求める手法。

3 実践能力は間違いなく向上する



野口　全国でも非常に価値の高い天然林が残る下北山村前鬼と上北山村大台ケ原、自然配植技術を用いた風倒木地の造林地である京都市貴船国有林等を見た上で、森林の場の価値向上を念頭に置いた森づくりの構想・設計・植栽までの実習を行ったので、森づくりに必要な基本的なことについては学べたかなと思っています。

髙田先生　アカデミー実習林で行った課題解決型トレーニングは非常に効果があったと思う。

　奈良県内の森林はその立地条件から「都市近郊林・保護林・吉野林業地・旧農用林」の４つに区分でき、旧農用林であるアカデミー実習林にて社会的背景から現状までを分析し、構想書作成から植栽まで行ったことで実践能力は間違いなく向上している。

4 せっかくやるなら面白いことをやろう

髙雄　髙田先生の教えを受けた学生がこの２年で約 30 名卒業しましたが、これから入学される方々も含め、今後の森づくりを担う次世代の人たちに向けて一言お願いします。

髙田先生　「せっかくやるなら面白いことをやろう」と思ってほしい。

　自然相手なので森林づくりの答えはすぐに出ないし、もどかしく思うことはたくさんあると思うが、その答えは書籍や参考書にない。現場にのみ答えはある。

　このことを忘れずに地域の森林づくりのプロを目指して、日々精進してほしい。